

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 生化学研究室)

TEL: 054-264-5531

HP: <https://www.us-souseikai.com/>

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻・環境科学専攻(旧:大学院食品栄養科学専攻)の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,300名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

静岡県立大学学長 尾池 和夫



創星会の皆さん、こんにちは。食品栄養科学を卒業された皆さんは、「食品」「栄養」「科学」という3つのキーワードで学習された方たちです。3つともとても憧れるキーワードです。しかもそれらが融合して学習成果を押し上げていたことだと思います。

私は日本ジオパーク委員会の初代委員長として、日本のジオパークの基本を「見る・食べる・学ぶ」と提唱してきました。大地を学ぶ公園ですが、その地の歴史、生活を体験するためには「食べる」が不可欠なのです。その土地ならではの大地に育つ果物や野菜、その海ならではの魚や貝、またその山ならではの猪や鹿、どれもとても美味しいのです。そこには必ず体に役立つとい

う意味があり、大地の成り立ちに美味しさの背景があるのです。食品は要するに美味しいなければ意味がないのです。

人には五感と、五感から得た情報を総合して思索するこころがあります。感染症拡大を防ぐために今大学の活動は制限されており、皆さんの後輩たちは苦労しています。視覚と聴覚だけに頼る学習には限界があります。早く五感とこころを十分に働かせる機会を作りたいと思っています。

学習された環境をさらに良くするために、どうかいつまでも大学に関心を持ち、後輩の育成にご支援を賜りますようお願いしつつ、学長としてのご挨拶といたします。

第14回 創星会(ホームカミングデー)再延期のご連絡

新型コロナウイルスによる社会情勢により、昨年度、開催予定でした第14回創星会(ホームカミングデー)は延期されました。今年度もさまざまな社会活動が自粛され、いまだ収束の見通しが立っていない現在の状況を鑑みて開催を見合せることといたしました。

コロナ感染症の一時も早い収束と皆様の健康を祈念いたします。



大学院薬食生命科学総合学府長／大学院食品栄養環境科学研究院長 熊澤 茂則



平成31年4月に大学院食品栄養環境科学研究院長を拝命しました。令和3年4月からは、研究院長は2期目となり、薬食生命科学総合学府長も兼任することとなりました。大学院の組織は、平成24年度より生活健康科学研究科から「食品栄養環境科学研究院・薬食生命科学総合学府」に変わっていますが、今の組織になって今年でちょうど10年目になります。10年前にこの大学院が開設された際の理念は、「食品栄養科学・環境科学と薬学の両面から健康長寿科学の学問分野を拓く研究者およびその成果を実践できる高度な専門職業人と指導者を育成する」とあります。この10年を振り返ってみると、多くの優秀な大学院修了生を世に送り出すことができ、その理念は十分に達成されてきたのではないかと思います。

令和2年度は、大学院も新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。当初、研究活動も制限されましたが、現在は感染拡大予防に留意しながら研究活動を続けています。このような中、大学院への優秀な志願者を確保するため、昨年度ホームページを全面改訂しました。ホームページには、各研究室の研究内容紹介だけでなく、本大学院修了生のインタビューも掲載しました。

令和3年1月1日からは、長期履修制度の運用を開始しました。これは、標準的な修業年限を延長して教育課程を履修して修了する制度です。例えば、博士後期課程の標準修業年限は3年間ですが、これを4年間や5年間とすることができます。学費は分納することになりますので、1年度あたりの学費負担の軽減にもなります。この制度を活用することで留年や休学として取り扱われることなく、修業年限を越えての計画的な履修が可能となりますので、職業を有している社会人に有益な制度です。

社会人大学院生を積極的に受け入れるため、静岡県工業技術研究所や農業技術研究所など静岡県の公設試験研究機関の研究者を対象とした大学院説明会も始めています。その甲斐あって、これらの研究所から毎年1~2名の研究者が博士後期課程に社会人大学院生として入学するようになってきました。このような多様な大学院生が在籍することは、他の大学院生の刺激にもなっています。

最近5年間の大学院修了生の就職率は100%であり、大学院修了生は主に企業の研究開発職や病院などで活躍しています。我々教員は今後も社会で活躍できる人材育成を目指して大学院をレベルアップさせていきたいと思っています。創星会の皆様方には、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

追 悼

星 猛 先生を偲んで

星猛先生におかれましては、2020年12月24日に、ご逝去されました（享年95歳）。

謹んで先生のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

ここ数年は、先生に直接お目にかかることが叶わず、突然、訃報に接することになったことを、大変残念に思います。

星猛先生は、初代食品栄養科学部学部長、その後、本大学の第2代静岡県立大学学長を務められ、本学部の礎を築かれました。

この会報誌の題字の下に「創星会」の趣旨があるように、この学部の卒業生の中から、星先生のようなスターとなる人物を生み出したいという思いから、その当時の諸先生方が名付けられました。直接、星先生の警咳に接した身としては、本学部の黎明期である当時に、諸先生が想像した未来、すなわち星先生が本当の意味での「星」であり、この学部から将来多くの分野において、同様な星を創っていくないと感じられていたことを、今現在、強く感じます。またこのことを、次の世代に継続していくことが、今、一教員として働いている私や、同窓会の役目であるとも考えます。先生が多くの学問分野を融合し、新たな学問分野である「食品栄養」という学問フロンティアを目指すという、崇高な目的のためにご尽力されたことを、改めて敬意を表したいと思います。折にふれて先生が仰っていた、ゲーテの言葉や、論語などの哲学的な考え方などが、コロナ禍の中で重要なことをつくづく感じています。

過去に疫病が流行したことにより、大きく社会が変革したことを知ると、このコロナ禍の中、大学や同窓会が社会の中で、どのような方向性を持って進むべきかが問われていることも感じます。恩送り“Pay it forward”という言葉があります。受けた恩は、第三者に送るという考え方です。星先生が礎を築いて下さったことを、今後も継承し、さらに継続・発展していくことを願い、追悼の辞としたいと思います。合掌。



人生の第4場 小林 裕和

(2020年3月定年退職:植物機能開発研究室／現在: (株)グリーン・インサイト・代表取締役)

家族からは、「じ～じ」と呼ばれる今日この頃、皆様にはご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

人生の大きな転機を3回とし、したがって、人生は4期から構成されるとしたい。第1の転機は、実家を離れて一人暮らしを始める大学入学。第2は、結婚して家庭を持つこと。第3を定年退職としたい。「サザエさん」は1946年から連載が始まった。その登場人物は年を取らないが、磯野波平は54歳の設定だ。その風貌からは現在の80歳以上か。昭和の期間を通して定年は55歳。1990年代に漸く60歳となった。昭和初期の日本人平均寿命は50歳に満たないが、現在は男女平均で84歳ぐらいか。当時の定年設定の基準に合わせるなら、現在の定年は80歳以上とすべきであろう。

そのような世相、幸い私も健康だ。したがって、定年退職は、第4場の人生をどう過ごすか考える機会となった。謎解きの醍醐味に魅せられて進めてきた研究の成果が、社会実装に絶えうるかを最後の課題としたい。私の興味は、植物が自身を構築する遺伝子発現の支配機構だった。しかしながら、その応用としての遺伝子組換え農作物は、日本では販売を目的として栽培できない。ところが、2019年に光明が見えてきた。厚生労働省は、ノックアウト型ゲノム編集を付した農作物に対し、届出のみでそれらの生産と販売を可能にすると発表した。昨年8月に私は起業し、会社はライセンスアウトにより利益を上げるBtoBの経営とした。幸い、「静岡県・大学発ベンチャー事業化加速・推進事業」にも採択された。私の会社に定年ではなく、本務・兼務も自由だ。私の研究室卒業生の自室に次ぐ進学先であった奈良先端科学技術大学院大学から依頼され、この研究推進部門長として、実家がある関西圏にも活動の場を拓げることとした。



写真:19階の自宅からZoom講義配信中
(2021年5月26日)

終盤を期待したコロナ禍は激化の途上。皆様のご健康と益々のご発展を願って止みません。

広告

バイオの力で未来を拓く。

株式会社 グリーン・インサイトは、「静岡県立大学発ベンチャー」として、植物の活用を中心とした特許出願技術の事業化に加え、科学的根拠に基づく知的情報を英語などによるエンターテインメントとして発信する会社です。

<https://ginsight-jpn.com>

静岡県立大学発ベンチャー
株式会社 グリーン・インサイト
Green Insight Japan, Inc.

株式会社タイショーテクノス

株式会社タイショーテクノスは、食品添加物・食品素材（保存料、日持向上剤、品質改良剤、着色料、香料、寒天・ゲル化剤、機能性素材）の製造販売を行っています。食品添加物メーカーである弊社の名前はご存知ない方が多いかと思います。しかし、弊社の製品は、皆さんのがスーパーマーケットやコンビニエンスストアで目にする様々な食品に使用されているため、知らず知らずのうちに出会っている方がとても多いと思います。私自身、就職活動を始めた当初は食品添加物メーカーの名前はほとんど知りませんでした。しかし、業界研究を行う中で、特定の製品だけでなく、より多くの食品に自分の携わった製品が使われることに魅力を感じ、食品添加物メーカーに興味を持つようになりました。

弊社では食品添加物に加え食品工場用サニテーション薬剤の製造販売も行っています。それにより、食品の安心・安全に様々な方向から貢献できる事が弊社の特徴の一つです。その他、工業用防腐・防かび剤も取り扱っており、食品以外の分野でも人々の生活に貢献しています。

現在、弊社に在籍している静岡県立大学の卒業生は10名です。10年前に私が入社して以降、ほぼ毎年県大生が入社しており、品質保証部、開発部、研究所、営業部、営業管理部、生産課、品質管理課など多方面で活躍しています。弊社は、研究

所と生産拠点が静岡県にあり、大学で学んだことを活かす機会もあります。また、福利厚生なども充実しているため働きやすい会社であると思います。弊社に興味を持っていた方はぜひホームページを訪問してみて下さい。

（食品学科20期生・大学院博士前期課程修了 村上拓也：右写真後列左側）



東京本社



富士小山事業所・研究所

株式会社サンプラネット

創星会の皆様には益々のご健勝のことお慶び申し上げます。

このような場で、弊社で働く県大の卒業生を紹介できる機会をいただき感謝いたします。

私は2015年に生化学研究室で大学院博士前期課程を修了し、現在は株式会社サンプラネットに勤務しております。弊社はエーザイ株式会社のグループ会社で、多くの事業を展開しエーザイをサポートしています。私の職場はエーザイ筑波研究所となり、業務では主に中枢神経領域の薬効薬理試験を担当しています。具体的には、化合物投与後の病態モデル動物の行動解析や病理解析をする試験を行っています。

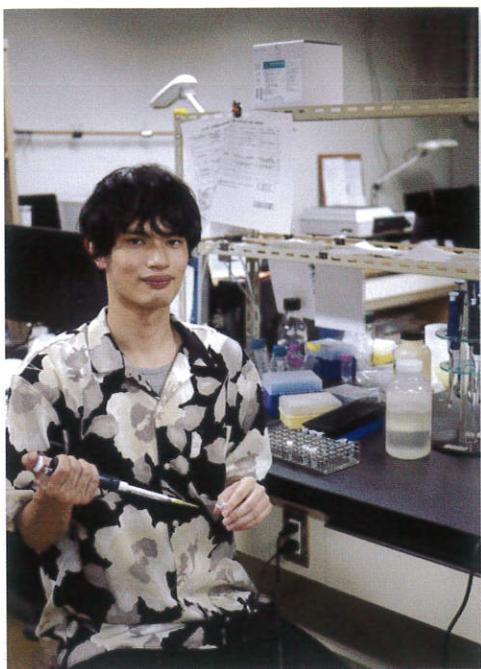
ここ数年では、弊社に多くの県立大生が入社し、現在は8名の卒業生（生化学4名、栄養化学2名、生理学1名、薬学部1名）が活躍しております。多くのメンバーは学生時代に培った技術や知識、経験を現場にうまく還元し、重宝されています。分野も、ニューロロジー、オンコロジー、薬物動態やハイスクリーニング等多岐にわたり、様々な分野で創薬の一翼を担っています。近年ではデジタルトランスフォーメーションが進み、ビックデータを活用し、創薬につなげることが多くなりました。そのような背景から、より信頼性の高い実験プロセスや高品質なデータが必要とされ、データジェネレーションの役割を担う我々も信頼性の高いデータを出せるよう、日々成長することが求められます。その期待に応え、膨大なプロセスを歩む創薬活動において、一歩また一歩と前へ進むことが我々の仕事のやりがいになります。

世界はCOVID-19による混乱が続き、多くの方々がその被害を被っており、創星会の皆様もその例外ではないかと存じます。そんな中で県大の卒業生がこのような場で活躍しているということを知っていただき、皆様の励みになれば幸いです。

（大学院博士前期課程23期生 真田 峻佑：写真後列左側）



大学院博士前期課程1年 小澤 崇宏さん(第31期 食品生命科学科卒業)



私は、本年度より本学大学院に進学し、人類遺伝学研究室にて『奇数脂肪酸と呼ばれる希少な脂肪酸とその合成酵素候補の機能解明』をテーマに研究を行っています。卒業研究で取り組んでいたテーマの続きではありますが、より専門的な内容に取り組んでいるため、新しいことの連続で勉強の毎日です。大学院の講義も、学部時代のものとは打って変わってより難しい内容にはなっていますが、それだけ刺激的でもあり好奇心を掻き立てられます。そのため、講義の課題に研究室での実験と忙しい日々ではありますが、充実した生活を送っていると感じています。

そんな私が本学を志望したのは元々人の健康と食に興味があったからです。さらに、かつて本学部にて大学生時代を過ごした母親の勧めがあったからでもあります。本学の先生方は、学生一人一人に手厚い指導を行っていて、このような手厚い指導のこともあり、母は私に本学を勧めていました。私は、先生方の熱心なご指導のおかげで、単に知識や技術のみが身についただけではなく、様々な考え方も身に付き人としても成長できました。そのため、本大学および大学院に進学して良かったなど心から思っています。

最近は、Quality Of Life (QOL) といった考え方が重要視されてきていることから、ますます本学で学ぶことの意義が強まってくることだと思います。健康長寿や食に興味を持ち、本学で学ぶ学生が増えることを一在学生として願っています。

トピックス

管理栄養士国家試験5年連続合格率100%を達成!



2021年2月28日に実施された第35回管理栄養士国家試験に、食品栄養科学部栄養生命科学科の卒業生24名全員が合格しました。学生の皆さんには、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、例年よりも大変な受験準備であったと思います。しかしながら、5年連続、合格率100%（全国1位）を達成し（全国の受験者全員の合格率は64.2%、管理栄養士養成課程新卒者の合格率は91.3%でした）、本当に良く頑張ったと思います。国公立大学・管理栄養士養成施設22校中、新卒者合格率が5年連続100%の大学は、本学を含め3校のみとなり、素晴らしい実績となりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、管理栄養士国家試験対策講座は、オンラインでの指導、模擬試験も密を避ける観点から、問題用紙を配布し各自で実施となりました。このような状況下、学生の皆さんには、最後まで一生懸命頑張り続け、合格を勝ち取りました。管理栄養士国家試験対策委員を担当した教員として、大変心配をしておりましたが、全員が合格し、本当に嬉しく思っております。

令和2年度卒業生の皆様、管理栄養士免許を取得でき、やっと管理栄養士としてのスタートラインに立つことができましたね。これから、日本のリーダーとして、世界に羽ばたく管理栄養士として、ご活躍を心より祈っております。

(管理栄養士国家試験対策委員 栄養教育学研究室 桑野稔子・亀山詞子)

昇進された教員の紹介

中野 祥吾 (准教授: 食品生命情報科学研究室)



令和3年4月1日付で食品生命情報科学研究室の准教授職を拝命いたしました中野祥吾と申します。2012年に本学に着任して以降、酵素工学を機軸としながら、情報科学(Dry)と実験科学(Wet)を駆使した新規研究領域の開拓と、Wet-Dry融合人材の輩出に向けた教育を実施して参りました。情報科学に対する期待の高さは、Society 5.0やDXといった情報系の横文字で溢れかえっている現状からも明らかです。一方で情報科学解析には良質かつ大量のデータが必要であり、データ产生と管理を行う人材との緊密な連携なしにイノベーションは達成できません。本学部の最大の強みは後者に関わる人材の輩出にあり、そこに情報科学が加われば、我々が予想もしない新たな食品・栄養・環境研究・産業が創生される可能性があります。本学部に眠る異能を引き出し、世界を変えうる人材を輩出できるよう研究・教育活動に努めますので、引き続きご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

新任教員の紹介 (令和3年4月着任)

細岡 哲也 (准教授: 栄養生理学研究室)



2021年4月1日付けで合田敏尚先生の後任として栄養生理学教室の准教授に着任いたしました細岡哲也と申します。私は、徳島大学を卒業後、ハーバード大学での2年間の留学を挟み、神戸大学糖尿病・内分泌内科において助教、講師、特命准教授として診療・研究・教育に携わってまいりました。糖尿病をはじめとする代謝学を専門としており、研究に関しては脂肪細胞・脂肪組織に焦点を当て研究を進めてまいりました。本学においては、これまでの研究に栄養の視点を取り入れることで、代謝疾患の新たな治療法・予防法の開発に繋げていきたいと考えています。また、これまでの経験を活かし、本学の学生教育にも尽力してまいります。微力ではございますが、本学の更なる発展に貢献できるよう全力で取り組む所存です。創星会の皆様には、ご指導ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

江口 智美 (講師: 調理科学研究室)



本年4月1日付で調理科学研究室の講師に着任しました江口智美と申します。奈良女子大学を卒業後、出身地である愛知県の公立中学校家庭科教諭を経て、兵庫県立大学にて博士号を取得し、山形県立米沢栄養大学の助教・講師として勤務してきました。

子どもの頃からおいしいものに目がありません。静岡のおいしいもの探索はコロナ禍につきお預け気味ですが、「おいしさ」への興味はつきません。おいしさ・健康・地球環境に配慮した多様な食生活への貢献を目指して、高齢者食の食感制御や、エコロジー調理に適した食品・調理法について研究を行っています。着任から早数ヶ月、研究・教育ともに恵まれた環境の本学で、牛歩ながら一步ずつ学ばせていただいております。これまでの経験を活かしつつ、新しいことにもチャレンジし、本学や社会の発展に貢献できるよう日々精進して参ります。皆様には、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

佐藤 友紀 (助教: 栄養化学研究室)



本年4月1日付で栄養化学研究室の助教に着任しました佐藤友紀と申します。私は、現赴任先研究室である栄養化学研究室の一期生として学位取得後、米国カリフォルニア大学アーバイン校で博士研究員として従事しました。主な研究として、肝臓や骨格筋などの末梢臓器における糖質・脂質代謝の研究を行い、その延長上で、糖や脂質の代謝が生体に備わる概日リズム・時計遺伝子によって強力に制御されていることを知り、留学先では臓器特異的時計遺伝子変換モデルを用いて末梢臓器での時計遺伝子の機能・意義を研究してきました。食品栄養科学部の一員として、自分がこれまでに学んだ時間栄養学の知識を生かして、食と栄養を介した健康長寿の実現に貢献できる研究を展開したいと思います。研究活動を通して、栄養管理の重要性を社会に発信でき、管理栄養士の臨床現場における地位向上を牽引できる人材育成に尽力する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

蘇 泓如 (助教:微生物学研究室)



2021年4月1日付で微生物学研究室の助教に着任いたしました蘇泓如と申します。中国江西省出身です。私は本学食品栄養科学部栄養生命科学科を卒業後、大学院薬食生命科学専攻へと進学し、本年に博士号を取得しました。この度、母校にて教員として研究、教育に携わる機会をいただけたこと、大変嬉しく思っております。

これまで、病原微生物の日本国内実態解明とその感染症の新規診断法開発に関する研究を行って参りました。今後は、大橋教授のご指導のもと、これまでの研究を継続するとともに、ヒトの健康維持・向上に役立つ有益微生物の研究も進めていく予定です。微力ではございますが、研究等を通して、母校の発展に貢献して参りたいと思います。創星会の皆様にはご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

吉岡 泰淳 (助教:生化学研究室)



2021年4月1日付で生化学研究室の助教に着任致しました吉岡泰淳と申します。私は、東京農業大学で学位を取得後、神戸大学で学術研究員、甲南女子大学助教を経て、今回ご縁あって静岡県立大学に赴任致しました。これまで、培養細胞や実験動物を用いて、骨格筋萎縮予防および高血糖予防の効果を持つ食品成分を探索し、その作用機構を明らかにすることで、安全性の担保された機能性食品素材の開発に従事しております。

静岡県立大学では、これまでの経験を活かしつつ、主任教員の三好規之准教授のもとで、分析化学的かつ分子生物学的手法を併用して、食品成分摂取によるエネルギー代謝の変動解析を進めて参ります。また、教育・研究を通じて、社会の課題を解決できる論理的思考力を備えた人材の育成に貢献したいと考えております。若輩者ではございますが、創星会の皆様にはご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

異動・退職された教員

新井 映子 教授 : R3年 3月退職 → R3年4月～放送大学静岡学習センター 客員教授

合田 敏尚 教授 : R3年 3月退職 → R3年4月～静岡県立大学食品栄養科学部 特任教授
食品栄養環境科学研究院 特任教授(兼務)
「ふじのくに」みらい共育センター長

守田 昭仁 助教 : R3年 3月退職

本間 一江 助教 : R2年12月退職 → R3年1月～株式会社メトセラ
静岡県立大学食品栄養科学部 客員共同研究員

伊藤 聖子 助教 : R3年 3月退職 → R3年4月～梅花女子大学食文化学部 准教授

吉田 卓矢 助教 : R3年 3月退職 → R3年4月～熊本県立大学環境共生学部 准教授

長谷部 文人 助教 : R3年 3月退職 → R3年4月～福井県立大学生物資源学部 助教

本田 沙理 助教 : R3年 3月退職

三宅 祐一 助教 : R3年 5月退職 → R3年6月～横浜国立大学大学院環境情報研究院 准教授

田中 瑞己 助教 : R3年 6月退職 → R3年7月～東京農工大学農学研究院 准教授



募集しています

創星会会報誌では、卒業生便り、企業紹介等を募集しております。

会員の皆様で、職場での様子や開発された商品、お店を自ら経営している方や著作紹介など、何でも結構です。

また、宣伝広告も掲載いたします(無料)。

卒業生・修了生並びに教員の先生方はもちろん在校生からの活動報告も待っていますので、奮ってご応募ください。

掲載をご希望の方は、E-mailアドレス: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jpまでご連絡ください。

会計中間報告

(令和3年8月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			14,052,536
R2. 8.11	ラベルシール		3,696	14,048,840
R2. 9. 4	アルバイト代 (R2.7~R2.8×1名)		42,000	14,006,840
R2. 9. 9	会報・封筒印刷費 (東洋プロセス、振込手数料込)		195,690	13,811,150
R2. 9.16	郵送料 (会報誌送料)		229,620	13,581,530
R2.10. 1	利子 (R2.10.1)	31		13,581,561
R2.10.15	学部生入学時同窓会費 (R2年度秋入学生)	59,854		13,641,415
R2.10.16	アルバイト代 (R2.9×1名)		35,000	13,606,415
R2.10.16	はばたき寄金へ寄付		20,000	13,586,415
R2.12. 9	アルバイト代 (R2.10~11×1名)		7,000	13,579,415
R2.12. 9	本間先生退職お餞別代		5,000	13,574,415
R3. 1.15	合田先生・新井映子先生退職記念品代 (振込手数料込)		24,420	13,549,995
R3. 1.15	創星会用卒業アルバム代		11,800	13,538,195
R3. 1.15	卒業アルバム補助金 (5,000円×72名) + 振込手数料		360,440	13,177,755
R3. 2. 1	星猛先生 吊電・供花 (2021.1.22) + 振込手数料		26,477	13,151,278
R3. 2.17	合田先生・新井映子先生退職記念品花束代		10,000	13,141,278
R3. 3.10	守田先生・吉田先生・伊藤聖子先生・長谷部先生・本田先生退職お餞別代		25,000	13,116,278
R3. 3.22	アルバイト代 (R2.12~R2.2×1名)		13,000	13,103,278
R3. 4. 1	利子 (R3.4.1)	31		13,103,309
R3. 4. 8	謝礼 (Quoカード 3,000円×2名)		6,000	13,097,309
R3. 4. 9	郵送代 (簡易書留×2)		808	13,096,501
R3. 4. 9	アルバイト代 (R3.3×1名)		14,000	13,082,501
R3. 5. 6	ホームページ月管理費 (R3.6~R4.5) (振込手数料込)		18,820	13,063,681
R3. 5.24	令和3年度学部生入学時同窓会費	2,849,854		15,913,535
R3. 5.31	三宅先生退職お餞別代		5,000	15,908,535
R3. 6. 9	文具代		110	15,908,425
R3. 6.11	田中先生退職お餞別代		5,000	15,903,425
R3. 7. 8	アルバイト代 (R3.4~6×1名)		37,000	15,866,425
R3. 7.30	ラベルシール		3,696	15,862,729

就職情報、学内情報、講演会情報等のお知らせについて

創星会では会報誌の他に、メーリングリストにて創星会通信をお届けしております。

内容は就職情報、学内情報、講演会情報等です。有用な情報を発信しておりますので、是非ご登録下さい。

メーリングリストのご登録は、創星会HPのトップページ (<https://www.us-souseikai.com/>) の「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)

【住所等変更登録について】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、メーリングリストのご登録同様、創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除 (souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp) を行ってからご登録の変更をお願いします。

創星会役員

令和3年度、創星会の運営に携わっている役員を紹介します。

創星会へのご意見、ご要望などございましたら、ホームページのお問い合わせメールをご利用下さい。

【会長】三好 規之(M9期生) 【副会長】伊藤 圭祐(M13期生) 【副会長】唐木晋一郎(環境物質科学専攻D修了(2003))

【幹事】林 久由(1期生) 【幹事】増田 修一(1期生) 【幹事】大槻 尚子(M11期生)

【幹事】石塚 典子(14期生) 【幹事】大原 裕也(19期生) 【幹事】寺田 祐子(20期生)

【幹事】佐藤 友紀(23期生) 【幹事】蘇 泓如(26期生) 【会計】大石 里夏(6期生)

【会計監査(兼任)】伊藤 圭祐